

わたしたちの活動



ブレストケア・ピンクリボンキャンペーン in 広島

過去の活動（2005・2006年）

2006年5月28日 第3回 ブレストケア・ピンクリボンキャンペーン in 広島

場所：基町クレド（広島市中区）



第3回目となるピンクリボンキャンペーンを5月28日、基町クレドで開催し、800人を超える方が会場を訪れました。広島でピンクリボンを広めよう、と数人の呼びかけで試行錯誤しながらの小さな市民活動が、社会を動かす大きな力となりつつあります。乳がんで1人でも大切な命を失うことがないよう、これからも訴え続けてゆきます。あなたと、あなたの大切な人のために。

広島的女性たちが乳がんでかけがえない大切な命を落とすことのないよう、ブレストケアの重要性を訴えるキャンペーンです。乳がんは主に女性の病気ですが、女性だけの問題ではありません。社会的な認知を高め、早期発見、早期診断による治癒率をもっと上げる必要があります。あなた自身のために、あなたの大切な人のために、この運動を地域へ広げて行きましょう。

基町クレド11階ロビーでは企業ブースなどを出展し、実演や販売などで賑わいました。ステージでは中村俊郎さん（中村ブレイス株式会社社長）による講演会「空想の翼で駆けて」やエリザベト音楽大学付属音楽団合唱団、安田女子高等学校音楽部、吉島お母さんコーラスグループ「サングレース」のコーラス、そして安田女子大学児童教育学科の皆さんによる踊りが繰り広げられました。



2005年8月20日 第2回 ランチョンセミナー開催

テーマ：「楽しく食べて人生愉快に」

基調講演1 講師：福田 護さん（聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科教授、NPO法人乳房健康研究会副理事長）

基調講演2 講師：岡山慶子さん（株式会社朝日エル 代表取締役）

場所：リーガロイヤルホテル広島 4Fロイヤルホール（広島市中区）



乳がん患者さんの治療中や病後のケアで重要な食事の問題を考え、学ぶ機会としての取り組みであるランチョンセミナー。第2回目の開催では300人定員での募集でしたが、326名の皆さんで会場が埋まりました。



基調講演は福田護先生（聖マリアンナ医科大学乳腺・内分泌外科教授、NP



O法人乳房健康研究会）による「乳がんと食事・栄養一予防と治療に関して」のお話と、岡山慶子さん（株式会社朝日エル 代表取締役）による「乳がんと食事・栄養についての内外の取り組み」として事例紹介がありました。

ランチでは栄養士さんのレシピで、リーガロイヤルホテルのシェフによるお料理をご提供。また、ご家庭で簡単にできる栄養士さんが作った、体に良い レシピを参加者全員に差し上げました（協力：広島県栄養士会）。



2005年5月3～5日 第2回 プレストケア・ピンクリボンキャンペーン in 広島

場所：ひろしまフラワーフェスティバル 2005

ゴールデンウィークの3日間に開催される広島県最大のお祭り「フラワーフェスティバル」で、ピンクリボンキャンペーンに4,000人を超える方が関わり参画しました。平和記念公園（広島市中区中島町）に風船でデコレートされたきれいなマンモグラフィ検診車が颯爽とやってきました！



2005年2月に導入された最新のマンモグラフィ検診車です。病院へ行かなくても、イベント会場でも気軽に受診できると

大好評の検診車。バスの中のスタッフは全員女性でした。5月3・4日の二日間で、広島県健康福祉センターでのおよそ一ヶ月の受診者の数に匹敵しました。当日申し込みが殺到し、時間の都合で受けていただけなかった方は本当に残念でした。乳がんに関する資料やパン



フをもれなく皆さんに差し上げ、早期発見の重要性をアピールしました。

5月4日には「ひろしまピンクリボンウォーク」を実施。参加者はタオルを首にかけて、風船と地図とジュースを手に、力強く軽やかに出発。2キロと5キロコースのウォークラリーを兼ねた楽しいウォーキング。途中でクイズに答えてプレストケアについて学びました。

またピンクの風船が青空になびく「ピンクリボ

ンブース」では願いと祈りを込めて2,400人の人がピンクリボンを結びました。ピンクリボンプリクラコーナーは、家族連れや若い人たちに大人気。デジカメで写真を撮ってその場でプリントアウト。3日間で220人の方がプリクラを撮りました。

患者会コーナーでは、のぞみの会、乳がん患者友の会きららが情報提供や相談に応じ、乳がん医療相談コーナーでは3日間で57人の方が相談を受けました。今回のキャンペーンにご協力いただいた先生方は以下のとおりです。



石井辰明さん（福山市民病院）、大崎昭彦さん（広島大学病院）、大下純子さん（広島大学病院）、片岡健さん（広島大学病院）、倉西文仁さん（尾道総合病院）、黒田義則さん（尾道総合病院）、春田るみさん（広島大学病院）、檜垣健二さん（広島市民病院）、久松和史さん（安佐市民病院）、村上茂さん（広島大学病院）

この他、お楽しみコーナーでは、水引でしおり、チラシでコースターを作ったり、絵手紙を書いたり、と253人の方が参加しました。栄養相談コーナーでは、食事や生活習慣などについて栄養士さんからアドバイスを受けられました。ボランティアは206人の方が早朝から準備や後片付けなど、自主的にまたチームワークよく行ない、ピンクリボンキャンペーンを創り上げました。

関わった人、実に4,000人を超えました。広島でピンクリボン活動を広めよう！と数人で声をあげて一年、乳がんで大切な尊い命を落とす人が1人もいなくなることを、女性の健康は社会全体の問題であることを認識し「No more breast cancer death!」。

わたしたちはこれからも、願いと祈りをこめて訴えつづけていきます。わたしと、あなたと、あなたの大切な人のために。

